



『的形地区』をたずねて

姫路市の東南部、播磨灘に面した的形町は、地形が弓の形的の形に似たところからついたとされる。また、遠浅の「まとかたの湊」を横切るとき、引き潮を待った「待潟」（まちかた）が転化した地名だともいう。

その的形はすぐれた名勝・史跡、古歌、伝説、民話などを合わせもつ「歴史の宝庫」である。古代の古墳に始まり、岩石信仰や行基伝説にまつわる寺院創建、中世では的形・福泊両城跡、地蔵などの石造物、近世では禅寺の庭園など各時代の特徴をあらわす多くの文化財が比較的良好な状態で保存されている。

なお、的形には神社が大小あわせて10社、寺院が9カ寺あるのも、古いものを大切にしてきた先人たちの心根がよく偲ばれよう。的形を知る人は今いちど、初めて訪れる人は、ここに新たな知識を得るだろう。

ぎょうき 行基が鼻

磯山の南端、奈良時代の高僧・行基が上陸した地点との伝説がある。海岸まで山が突き出て、先端は波止場になっている。

行基が鼻



住吉神社

海上安全を祈って、平安時代に大阪・住吉大社から分霊を勧請して創建された。境内に金毘羅神社など四小社、また「志ぐれ松」の碑がある。志ぐれは「時雨」の意、真夏にこの松の下に立ち寄ると、松葉から落ちる水玉で、衣類が通り雨にあったようになったため名づけられた。

住吉神社



梅山古墳（おんばがふところ）

通称「乳母が懐（おんばがふところ）」と呼ばれている。未発掘なため出土遺物は不明、ほぼ原形をとどめている。磯山の南斜面に大小不規則な石を積み上げた横穴式石室をもつ円墳で、古墳時代後期に属するものである。

梅山古墳



くうらいぼう 空頼坊の墓

磯の大銀杏樹の下、方形に土堀をめぐらし五輪塔がある。法印権大僧ごんだいそう都・空頼良譽くうらいりょうよの墓地と伝える。ここを足で踏むと怪しい音がすることから、宝物埋蔵説があり、いたずらすると必ず病気になると言われる。僧・空頼は麓の人だが詳細は不明。

空頼坊の墓

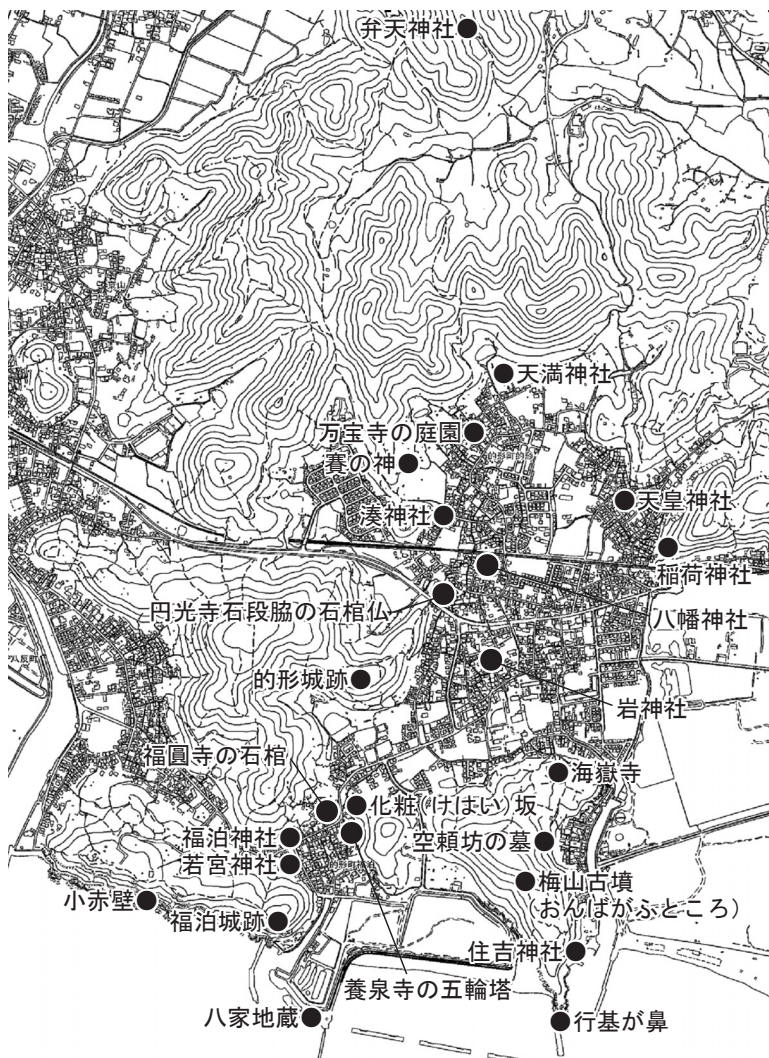


かいがくじ 海嶽寺（臨済宗妙心寺派）

的形町内の寺院では最古、天平年間、僧・行基の開基と伝える。中世に紀州・無及むきゆう禅師が中興し、江戸時代に現在地に再興される。長い石段しょうろうの上に鐘楼門がある。

海嶽寺





八家地蔵

伝説では、奈良時代、大亀に乗って海中より現われ、この地を訪れた僧・行基が安置し開眼供養したという。鎌倉時代の花崗岩製で、高さ1.9メートル丸彫りの精巧な造りである。白井元貞著『木庭記』には、乾元元年（1302）^{あんどうれんしょう}安東蓮性が福泊港を整備した時、木場にあったこの像を港の繁栄を願って移転させたと記す。江戸時代後期、享和3年（1803）版の『播州名所巡覧図絵』では露地の地蔵を訪れる参詣客や塩田風景が描かれている。子授け地蔵として名高く、尼崎・堺には分霊がまつられ信仰を集めている。

また、八家地蔵の東には、安政年間に砲壘を築いて、大砲を備えていたが、今その姿はない。

小赤壁

福泊から木場へつづく一帯の海岸。灯籠地山、姫御前山、木庭山の奇岩巨石が海に迫り絶景の景勝地である。文政8年（1825）8月、頼山陽がここに一夕の清遊をこころみ、中国・武漢の名勝地「赤壁」になぞらえて命名した。

福泊神社

的形町福泊地区の氏神。神功皇后ら四柱の祭神をまつる。本殿は、平成13年、姫路市の重要文化財に指定された。16世紀中ごろ戦国時代の建築と推定され、姫路市内に残る数少ない一間社隅木入春日造である。



福泊神社

若宮神社

応神天皇をまつる。創建年月は不明。江戸時代中期の僧・良寛が播州地方を行脚の途中、ここの境内で野宿した。そのときの歌

おもひきや
みちの芝草 打ち敷きて
こよひも同じ 仮寝せんとは



若宮神社



八家地蔵



小赤壁

福泊城跡

小赤壁の東端、灯籠地山の頂上。室町時代の応永年間、初代城主は恋の浜城（姫路市白浜町）の城主・三木通近の孫・長尾通朝、二代目は通朝の弟の子重朝、三代目以後は不詳。天正8年（1580）頃まで続いたとする説がある。

化粧（けはい）坂

的形から福泊へ越える旧坂道。伝説に福泊神社の弁財天が的形・湊神社の湊明神に嫁入りするとき、ここの坂で化粧を直して嫁いだのでこの名がついたという。ところが、この結婚はわずか一年たらずで破綻してしまった。そこで、後の世の人々は嫁入りのとき、この坂を越えるとその縁は必ず長続きしないといって、この坂を通らずに福圓寺の裏の方へ避けて通ったという。

養泉寺境内の五輪塔

本堂南側にある花崗岩製のもの。この五輪塔は、もと福泊城のあった灯籠地山の山腹に埋もれていたのを、江戸末期に掘り起こし移設した。ただし、最下部の基礎（地輪）だけは行方不明で、後世に追加された。養泉寺にはもう一基、本堂裏に五輪塔がある。

福圓寺境内の石造物

本堂横に家形石棺の身の部分が、裏の竹やぶには大きな五輪塔の火輪・水輪が残る。境内の墓地近くに南東に面し海を見下ろして「一石三尊石仏」がある。赤い板石の中央に炎に包まれた不動明王と「コンガラ童子」「セイタカ童子」の二童子が刻まれている。裏面に、近くの福泊神社神宮寺の僧・英定^{えいじょう}の名を記す。

的形城跡

西小嶋の背後、上ノ山の頂上。城主名は長尾重朝とだけ判明しているが、これは福泊城主の二代目と同じ人物。兼ねていたのかもしれない。なお、円光寺境内に「的形城址」の石碑が建てられている。

岩神社

ここの地下に一大岩盤があり、その一部が露出している。そこに人々は神を感じ小社を建て地区の守り神として信仰を寄せている。古代から今に伝わる岩石信仰の一典型である。

円光寺石段脇の石棺仏

民家脇の崖下にあり、家形石棺の蓋石に阿弥陀如来像と地藏尊像を左右に陽刻してある。幅60センチ、高さ85センチ。南北朝時代の永和3年（1377）の建立で、木場の石棺仏（袖もぎ地藏、1364年）より13年遅れて造られている。



福泊城跡



化粧（けはい）坂



養泉寺境内の五輪塔



福圓寺境内の石造物



的形城跡



岩神社



円光寺石段脇の石棺仏

八幡神社

古代、的形の湊と呼ばれる入り江の真ん中の島が境内地。神功皇后の^{しやぎ}謝儀伝説によって八幡大神が奉祀された。湊神社と密接な関係にあり、お旅所として毎年10月14日の両社秋季例大祭には、盛大な渡御行列が行われる。



八幡神社

湊神社

^{みづなと}素盞鳴尊・大歳大神を祀る^{すさのおのみこと おおとしのおおかみ}的形の氏神。奈良時代に創建され、平安時代の「播磨国神名帳」には「湊明神」、室町から江戸時代には「大歳大明神」と呼ばれた。平成22年からの大修理で、本殿は300年、幣殿・拝殿は140年ぶりに改築された。石段脇に古代・中世・近代の的形を詠んだ歌碑三基がある。



湊神社

賽の神

地地区の西南、村境にある道祖神。疫病の侵入を防ぎ、村人・旅人の安全を守るといふ。平成20年に改築された。



賽の神

天満神社

祭神は菅原道真。創建は平安時代、村上天皇の天暦2年(948)と伝え、地上に突き出た高さ1メートルの大石「菅公腰掛岩」^{かんこうこしかけいわ}をご神体として崇敬している。なお、江戸時代の享保21年(1736)、的形村庄屋・石原矩倫^{のりみち}が社殿を改築し、菅公の神像(木像)と神額を奉納している。



天満神社

万宝寺(臨済宗妙心寺派)の庭園

千利休の孫・宗旦^{そうたん}の高弟、杉木普斎^{すぎき ふさい}の作庭と伝える池泉観賞式庭園。^{ちせんかんしょうしき}庭の中心に築山があり、そこに守護石となる巨石が組まれて、下方に枯滝、主木としてはソテツが植えられている。池に石橋が二か所ある他、背後の大日山(115メートル)を借景としている。同寺は寛文4年(1664)に慶雲寺(姫路市野里)^{だいひこうさい}の^{だんおつ}大悲弘濟禅師の開祖。二代目住職に入山したのが、地元的形の回船問屋・中村勘兵衛の次男鉄心である。この鉄心和尚は、^{だんおつ}壇越としての中村家の支援もあって、本堂建立など伽藍を整備した。



万宝寺の庭園

天皇神社

明治8年(1875)、昔からの小祠を改築し、北山河地区の住民らが、広峯神社の祭神・牛頭天王^{ごずてんのう}(^{すさのおのみこと}素盞鳴尊)を勧請して再興した。通称「てんのうさん」、毎年4月18日に「お田植祭」、7月18日には夏祭りが行われる。



天皇神社

稲荷神社

南山河地区の宇山河山に鎮座する同地区の守り神。由緒は不明、祭神の稲倉魂神(うがのみたまのかみ)は、穀物の神様だが近世からは商業神として祀られている。境内地は55坪。祭礼日は7月22日。



稲荷神社

弁天神社

大鳥地区の引入谷、弁天池の上方にある。由緒などは不明。昭和27、30、48年に、北山河・和田義一氏(故人)によって整備されたが、近年また荒れている。



弁天神社

■編集 神栄 越郷(湊神社宮司)